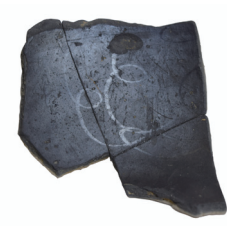


石田遺跡現地説明会

平成27年10月18日(日)
三条市市民部 生涯学習課

遺物
遺構内から土師器・須恵器・陶磁器・木製品など古代から中世にかけての遺物が出土しました。古代の遺物としては、須恵器が数多く出土しています。その他、特出すべき遺物としては、暗文をもつ内面黒色土器と外側に墨書をもつ土師器の無台椀です。残念ながら、2点ともに欠損しています。そのため、詳しいことはわかりません。



内面黒色土器



土師質土器



土師器無台椀



珠洲焼・天目茶碗

中世以降の遺物としてはろくろを使わず、手で成形された土師質土器や珠洲焼・天目茶碗などの陶器が出土しています。また、調査区西側の自然流路から数多くの木製品が出土しています。その中で、注目すべきは井戸（SE4070）から出土した大きな曲物を再利用した井戸枠です。5点の曲物を組み合わせて、出土時の高さは約80cmありました。このような大きな井戸の発見は近くにある程度の規模の集落があったことの裏付けとなります。



井戸枠（曲物）出土状況（SE4070）



須恵器無台杯出土状況（SX4222）

石田遺跡と周辺の遺跡

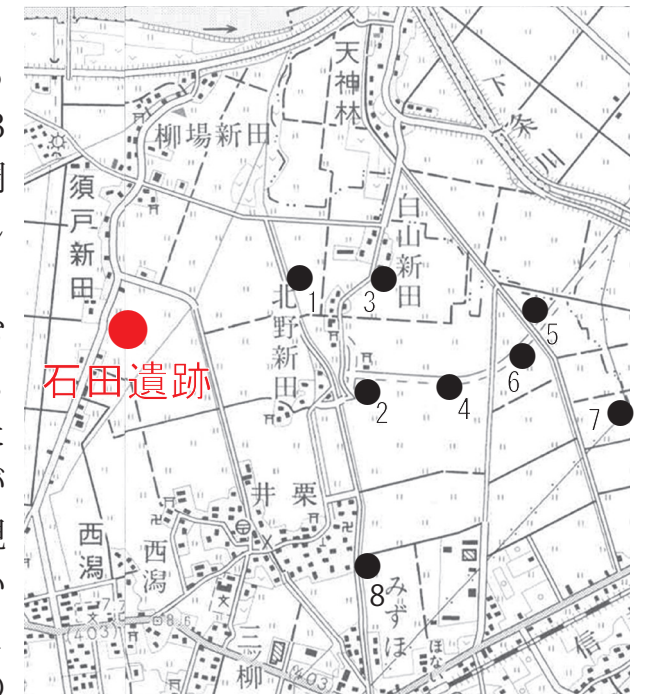
石田遺跡の周辺には数多くの遺跡が所在しています。一般国道403号三条北バイパス・ほ場整備事業吉津川地区などに伴う開発事業により多くの発掘調査が行われました。また、石田遺跡は平成19年度にも市道改良工事のため発掘調査を行っており、平安時代の土坑や溝跡が発掘されています。

石田遺跡の周辺は平安時代の遺跡がもっとも多く、中でも藤ノ木遺跡では、平安時代初め頃の米倉と考えられる総柱建物が確認されていることから、積極的に新田開発をおこなっていたことが伺えます。室町時代になると遺跡の数は減るものの、溝で区画された屋敷が藤ノ木遺跡や割前遺跡などで確認されています。これらの遺跡は布施谷川によって形成された自然堤防上に位置しており、周辺より高い場所を居住域、低い場所を生産域として区分けされていたと考えられます。

両時代の地域の状況について、今回の調査をふまえて検討を重ねたいと思います。

はじめに

石田遺跡は三条市須戸新田地内に所在する沖積平野に立地した遺跡です。一般国道403号三条北バイパス道路改築事業に先立ち確認調査を実施したところ遺跡が良好な状態で残存していることから、事前に発掘調査を実施することになりました。今年度は潟通川排水路を挟む260mの範囲について調査を実施しています。遺跡の時代は平安時代と室町時代を中心とした中世で、建物がある生活域と溝や耕作の痕跡がある生産域について調査を進めてきました。現在の須戸新田は、地名に「新田」とつくことから分かる通り、近世以降に井栗村を親村として開発が進められた集落であり、中世以前の文献からはその名を確認することはできません。今回の調査では、大槻潟縁辺部における開発の様相が伺うことができ、また、近世以前に当地に人々が進出する様子が判明しました。



- 1 割前遺跡
- 2 藤ノ木遺跡
- 3 白山B遺跡
- 4 谷内遺跡
- 5 新田川遺跡
- 6 吉津川遺跡
- 7 安曲遺跡
- 8 来迎寺遺跡

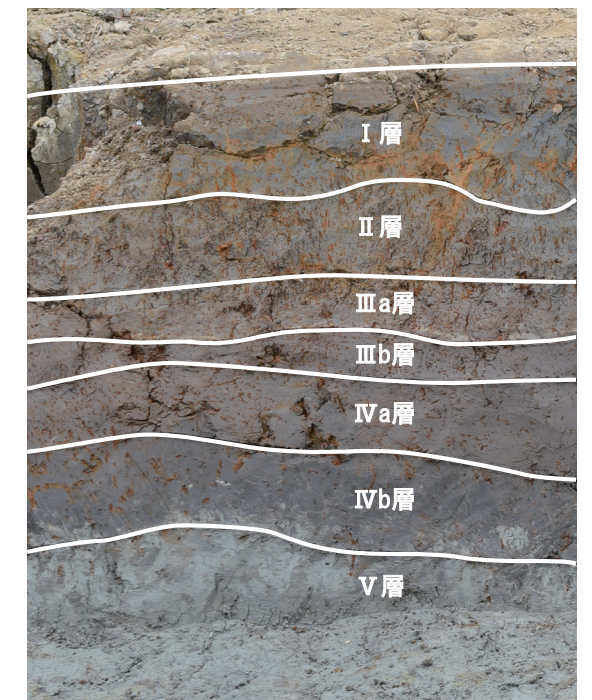
遺跡位置図 (S=1:50,000)

調査の概要

基本土層

調査区内の土層堆積状況は以下の通りです。

- I層：表土（現在の田面）
- II層：黄灰色粘質土（耕作土床土）
- III a層：暗灰黄色シルト
- III b層：灰黄褐色粘質土
- IV a層：褐灰色粘質土
（古代から中世遺物包含層）
- IV b層：黒褐～黒色粘質土
（古代から中世遺物包含層）
- V層：地山（上面が遺構確認面）



基本土層

遺構

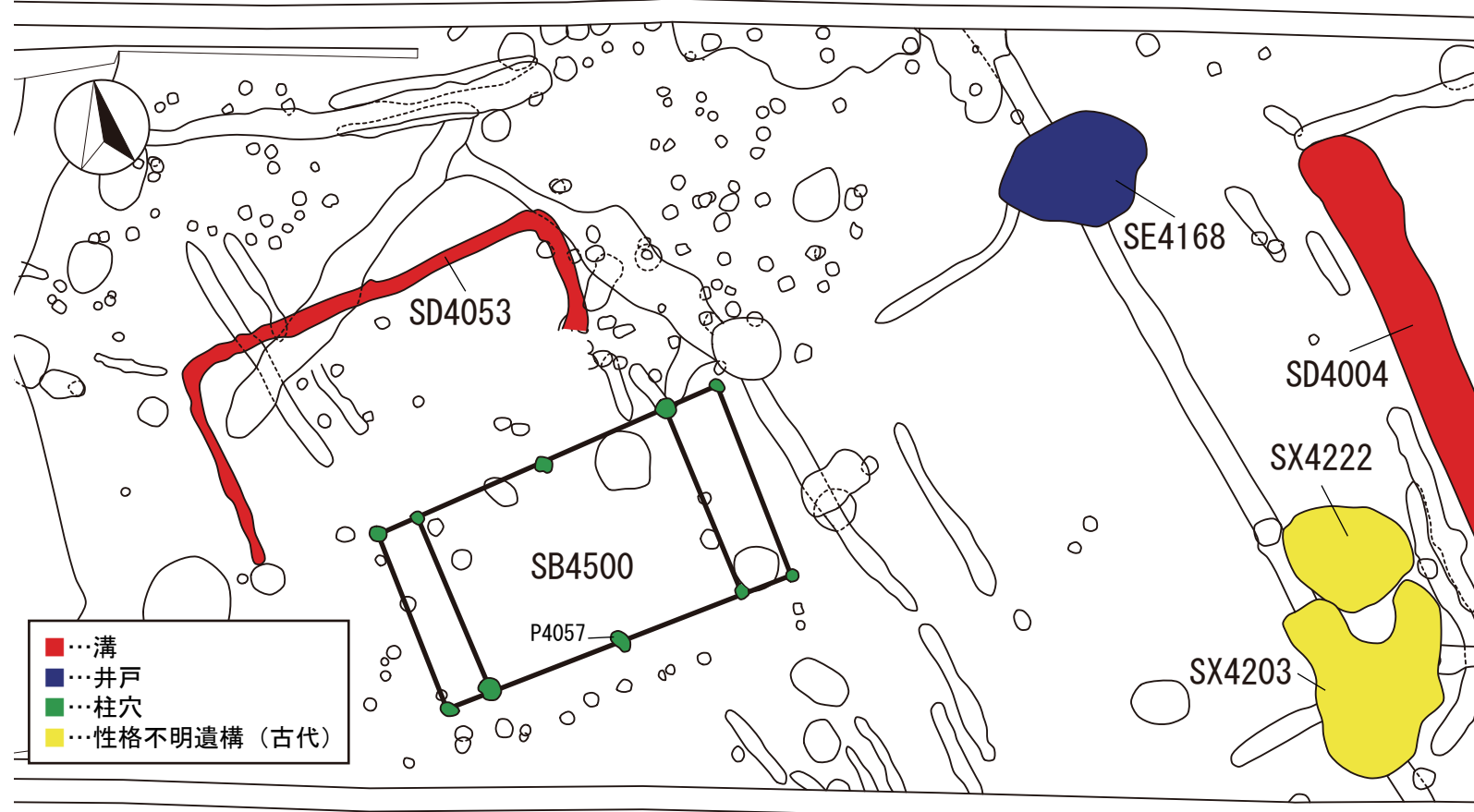
今回の調査は地区を3区と4区に分けて進めています。4区では古代から中世までの遺構を約380基検出しました。ほとんどは柱穴を含むピットで、この他に井戸、土坑、溝、性格不明遺構、自然流路等がみついています。大半が中世の遺構と考えられ、古代の遺構は一部の溝や性格不明遺構のみです。

4区西側の低地では自然流路(NR4001・4002)が検出され、古代から中世にかけての土器が出土しています。中世の時期には流路の両岸に畦畔を造ったり、一度流路が埋まりかけた時に井戸(SE4070)を構築したりしています。この井戸からは曲物とそれを囲う板材が出土しています。

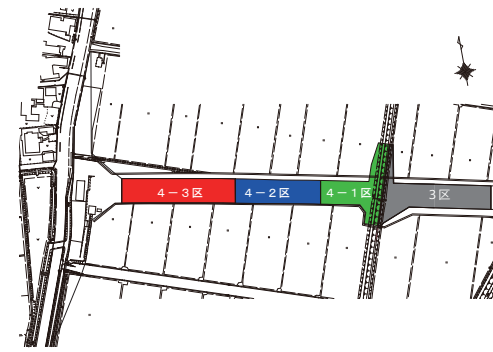
4区西側の台地では、1間×2間で東西に1間分の庇が付く掘立柱建物(SB4500)が見つかりました。このうち3基の柱穴では柱根が残っており、最大のもので長さ約70cm、幅が約15cmです。この他に建物と似た軸線を持つコの字状の溝(SD4053)や、区画溝(SD4004)、径が2mを超える井戸(SE4168)等がみついています。建物を含めたこれらの遺構の時期は中世と考えられます。古代の遺構では、調査区南側に並行する溝群があり、畝作に伴う畝間溝と考えられます。この他に、完形品の須恵器無台杯が出土した遺構(SX4222)や帯状に土器が出土した遺構(SX4203)等があります。

4区東側はピットが少なく、井戸や大小の溝、畝作に伴う畝間溝などが中心です。見つかった遺構の種類や遺物の少なさなどから、この区域は生産域として利用されたと考えられます。溝からは中世の珠洲焼等が出土しています。

3区は現在調査中で、幅広の溝から中世の土器が出土しています。



遺構集中区平面図 (1/150)



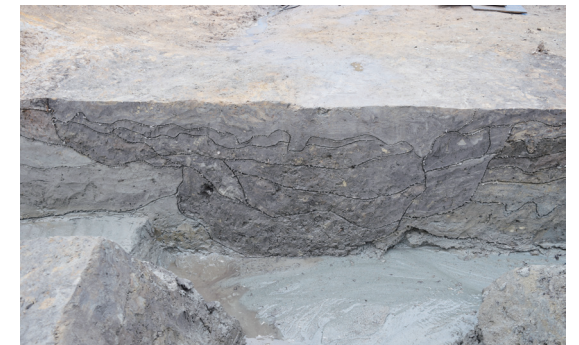
調査区概念図



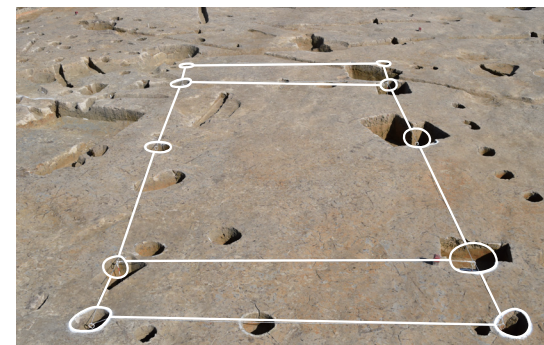
調査区全景 (西から)



4-2区検出状況 (上が北)



井戸 (SE4070) 断面 (南から)



掘立柱建物 (SB4500) 全景 (南西から)



P4057 柱根出土状況 (東から)



コの字状溝 (SD4053) 全景 (南東から)



井戸 (SE4168) 完掘状況 (南から)



SX4203 遺物出土状況 (南西から)



4-2区溝群 (北から)